

# 平成 30 年度事業計画書

(平成 30 年 4 月 1 日～31 年 3 月 31 日)

平成 30 年 4 月 1 日

公益財団法人東京陸上競技協会  
理事長 中野 人志

# 平成 30 年度 公益財団法人東京陸上競技協会 事業計画

設立当時から、社会のニーズに合わせて、東京都のスポーツ文化振興の推進役としての役割を果たしてきました。

責任の重さを認識し、公益財団法人になってから 6 年目に入る平成 30 年度は、定款に掲げている事業と共にさらに、陸上競技を通じて都民のためのスポーツ界の事業振興と、東京 2020 オリンピック・パラリンピック大会の開催に向けて、3 本の重点事項を基に事業を進めていきます。

## 1. 魅力ある東京陸協を目指す

当法人の登録会員は、小・中学生から大学生までの陸上競技を主体に活動する若年層の会員、実業団（職域）、陸上を愛好する人たちで構成している一般クラブの会員等、競技力向上を目指す人達や、陸上競技を通じて健康増進にスポーツを楽しんでいる人達で構成されています。スポーツ文化推進の役割を担う当法人としては、魅力ある事業と感じるとともに、公益法人として心・技・体のバランスを持った法人として、以下の項目に取り組んでいきます。

### (1) 組織強化と業務遂行の仕組みづくりへの取り組み

公益法人として発足して 5 年が経過し、その間、スポーツを取り巻く環境も大きく変化してきており、社会のニーズに応じた定款や運営規程・役員選出等に係わる基本的な諸規程を改定し、業務運営を円滑に進めてきました。

平成 30 年度もスポーツ社会の環境変化を的確にとらえ、東京 2020 オリンピック・パラリンピック終了後における当法人の組織・事業運営について、専門委員会、特別委員会を含めた将来のあるべき姿を、定款・諸規程の整備を進める中で、関係者と協議したいと考えています。

### (2) 人材育成と人材発掘

一般社会において少子高齢化が進んでいる中、楽しい老後をエンジョイする高齢者でありたいとスポーツを通して、健康を維持のする人たちが会員の中に多くを占めてきました。同様に、当法人の役員も高齢化が進みつつあります。

また、競技運営面では、トラック&フィールドの競技において、中・高体連の大会と当法人の主催する公認大会が多く開催されており、魅力ある競技会運営を行うために人材育成は喫緊の課題となっています。

東京 2020 オリンピック・パラリンピックが開幕する頃までに、専門委員会を含めた役員に対する人材の発掘・育成を推進する諸施策を協議したいと考えています。

### (3) 魅力ある大会・競技会運営への取り組み

当法人としては、次の 6 つの分野での取り組みを推進します。

① オリンピック・パラリンピックにおける競技運営を見据え、全国大会のひとつとしてグランプリプレミアムシリーズにおける「TOKYO Combine Events Meet 2018（混成グランプリ）」と「元旦競歩大会」を開催。

② 東京都における最強のチャンピオンを決める「東京陸上競技選手権大会」の開催。

- ③ 東京都の各世代のチャンピオンを送り出す「国体東京都代表選手選考会」「東京ジュニア陸上競技大会」「全国小学生陸上東京代表選手選考会」を開催。
- ④ 小中学生を対象としたジュニア競技者の育成・強化を目的に、「ジュニア陸上競技チャレンジカップ」「中学生春季陸上競技会」を開催しスタンドと一体となった競技運営の実現。
- ⑤ 女性の社会進出を側面からサポートし、育児、家事等と両立できるような「東京ウィメンズ陸上」の実施。
- ⑥ 地域や企業があらゆる分野の陸上競技（ジョギングを含む）を通して、健康促進や仲間と楽しむことを目的とする「都民体育大会」「都民生涯スポーツ大会」「シニア健康マラソン大会」「東京都障害者スポーツ大会」での陸上競技大会の運営と「味の素スタジアム6時間耐久リレーマラソン」「駒澤6時間耐久レース」「新宿シティハーフマラソン」「青梅マラソン」「東京マラソン」「立川シティハーフマラソン」「板橋Cityマラソン」などの競技会の運営。

#### (4) 東京陸協をアピールする取組み

広報活動を通じて登録会員や一般社会から認めてもらえるような法人となる為に広報誌「飛翔」を抜本的に見直し、「東京陸協ホームページ」と統合して速報性のある情報提供と効果的な「東陸ニュース&トピックス」を発信していきます。

#### (5) 東京2020オリンピック・パラリンピック運営への取組み

「東京2020オリンピック・パラリンピック大会準備委員会」を平成29年度に発足し、上外部団体からの情報収集や協議を進めてきた結果、当法人としては、スタジアム競技（トラック&フィールド）における審判員の一部、マラソン・競歩のロード競技について競技運営に関わることになりました。

平成30年度は、この結果に基づき、ロード競技を中心とする競技役員に対する研修会を開催します。また、上外部団体と緊密な連携のもと協議を重ね競技運営の内容や役員配置など、さらに具体的な詳細事項をまとめる計画といたします。

また、東京2020オリンピック・パラリンピックに向けて機運醸成を図るために東京都・各障害協会が行う陸上デモンストレーションに協力したり、2020五輪をイメージした「20m20cmかけっこ」を都内各地で開催を予定している。「未来への道1000km縦断リレー」など東京都と共催、後援大会においても積極的にオリンピックへのPR活動を陸上競技を通じて行っていきます。

## 2. さらに「強い東京」を目指す

加入団体・協力団体、多くの指導者の協力と競技者自身の努力もあり全国大会でチーム東京が、連続して優勝するまでになり、他の道府県から打倒東京という言葉が言われるようになりました。さらにオリンピックでメダルを獲得する競技者の育成強化をしていくために強化事業としてさらに「強い東京」を目指す取組みをしていきます。

### (1) ジュニア強化への更なる連携強化の取組み

- ① 平成30年度も小学生から社会人（実業団）の競技者強化の目的にあわせて小学生は東日本都道府県交流大会への派遣、合同練習会、強化合宿等の実施、中学生、高校生は合同練習会、強化合宿等の強化事業を推進して、福井国体での天皇盃（男女総合優勝）、皇后盃（女子総合優勝）の獲得より、その成果を結びつけていきます。また、天皇盃全国都道府県対抗男子駅伝、皇后盃全国都道

府県対抗女子駅伝も悲願の総合優勝に向けて会員と一体になって発掘、強化を進めていきます。

② ジュニア競技者に対する普及強化や安全で正しく楽しいスポーツが出来るよう、地域のスポーツ組織での専門的な技術者の養成や競技力の向上を図るために、陸上競技指導者講習会、公認コーチ講習会を実施します。

(2) 大学・企業チームとの更なる連携強化への取り組み

強い「チーム東京」を編成していく中で、「東京生まれの東京育ち」の選手が「ふるさと東京」の代表となるように、大学、企業チームと一体になって選手の派遣を進めていきます。

(3) 国体天皇杯、皇后杯の連覇継続への取組み

東京都における競技活動の活性化をはかる目的で、国民体育大会や全国都道府県対抗駅伝大会等へ東京を代表する競技者を派遣し、競技者に陸上競技の喜びを経験する機会と競技者相互の交流を深める場を提供しています。

あわせて、将来、強化指定競技者になるような人材を見極めるために、中・高校生が主体となるような合同練習会等を実施していきます。

(4) 東京2020オリンピックへの東京代表選手派遣の取組み

東京2020オリンピック・パラリンピック大会に多くの東京都代表選手を派遣できるように東京都オリンピック・パラリンピック準備局が認定した「東京アスリート制度」に加えて、当法人が指定した「東京陸協特別強化選手」の対象者に対してオリンピック出場を目指した強化策や側面からのサポートを推進していきます。

### 3. 財政の健全化を目指す！

財政が安定してこそ諸事業を安心して推進することができます。財政健全化の為に、今まで以上に新規協賛金の発掘と経費削減への取組みを以下の項目を基本にして進めていきます。

(1) 基本財産を増加させる取組み

法人の運営基盤となる基本財産の増加に努力していきます。

(2) 収益増加と経費削減への取組み

① 新たな収益財源確保に向けた事業などを検討し、将来への種まきをします。

② 予算をベースとした計画的な経費支出に取組みます。

(3) 寄附金、賛助会員(賛助寄附金) 増加への取組み

寄附金先の開拓と東陸会員以外の賛助会員層の確保に取組みます。

(4) スポンサー企業の獲得強化への取組み

当法人の事業活動について理解をしていただくようにPR活動を進め、オフィシャルスポンサーを開拓します。

(5) 関係諸団体との更なる連携強化への取組み

共催・主管・後援・運営協力する大会またはイベント事業等で、各団体との関係強化を図り、資金確保の機会を増やしていきます。

「3本の重点項目」は、相互にそれぞれの取組みをサポートする関係にあると考えます。

以上